

『新しい物語のはじまり』 イザヤ43:18-19

43:18 「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、また、いにしえのことを考えてはならない。

43:19 見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれを知らないのか。わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる。

●序論

「見よ、わたしは新しい事をなす。」

今日見ているこれらの言葉は、バビロン王国によって祖国を破壊され、異国に連れて行かれ、苦悩に満ちた捕囚生活を送っていた人々に向けて語られたものでした。

彼らがそこで経験していたのは、圧倒的なバビロン王国の力と、自分たちの弱さでした。これまでイザヤを通して神に立ち返るように言われ続け、それを拒み続けて来た過去があった。

そういう彼らのすべてを御存じで、神は彼らを見放しておられなかった。なおもイザヤを通して神は語られています。

これは、ただの歴史物語ではなく、今の時代を生きるわたしたちも、耳を傾けそして聞き取るべきメッセージであることを覚えます。ここで語られる神は、イエス・キリストを通してわたしたちの神となってくださっているからです。

●本論

I. 神さまありき、神さま始まりです

「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。」

使徒信条冒頭の告白は、人を含めた天地万物のすべてが、神さまによって造られた、神さま始まりのものであることを「信ずる」と告白しています。

先日ゲスト、兼光伸一先生は、聖書の最初の一節「はじめに神は天と地とを創造された」という言葉を読んで、一瞬でここに本物の神が語られていると直感したそうです。あの同志社の創設者、新島襄は、聖書の断片を読み、そこで自問した。「だれが私を創ったのか？ 両親か？ いや神だ。…そうであるなら私は神に感謝し、神を信じ、神に対して正直にならなくてはならない」と。

このお二人に純粋なものを感じます。それは、神を神として心から畏れる心です。

今日記されているイスラエルの人々にはそれが失われていました。だから預言者イザヤは、しつこくまことの「神」そのお方を指してきたのです。

:25 …「それで、あなたがたは、わたしをだれにくらべ、わたしは、だれにひとしいというのか」。

:26 目を高くあげて、だれが、これらのものを創造したかを見よ。

預言者イザヤは、神を無視して滅びゆく人々へ警告し続けてきました。

ただし、イザヤはその滅びへの警告と共に、将来の回復の希望も語り続けてきました。

その最も鮮明なメッセージが、今日語られているみ言葉です。

43:19 見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれを

知らないのか。

これは、誰かの口約束ではなく、天地万物の造り主である神がおられ、神によって始められる事柄だと、イザヤは確信を持って語っているのです。

Ⅱ. 神がなさる事柄です

神がなさる事柄だからこそ、それは、わたしたちの想像を超えてユニークです。だから、まずここで人々の中にある閉塞感にも言及されています。

:18-19「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、また、いにしえのことを考えてはならない。見よ、わたしは新しい事をなす。…」

「さきの事」「いにしえのこと」というのは、昔の経験、昔の出来事のことです。ちょうど、ここで語られている人々は、自分たちが今、バビロンで苦しみを負っているそのありさまを卑下して、今のみじめさを嘆く自分しか見えなくなっている状態です。

そんな彼らに、イザヤは神の言葉を丁寧に語ります。現代訳聖書で。イザヤ43:14~19

:14 あなたがたを救い出されたイスラエルの聖い神、主はこう仰せられる。「あなたがたのために、わたしはバビロンを軽々と倒してしまおう。

:15 わたしは主で、あなたがたの聖い神、イスラエルの造り主で、あなたがたの王である。」

:16 紅海に乾いた道を造り、

:17 エジプトの戦車や馬をそこで倒された、主はこう仰せられる。

:18 「出エジプトの時の出来事など、これからする事と比べたら、問題にならない。

:19 わたしは、これから新しい事をする。それは、もうすぐ起きる。

彼らにとって出エジプトの出来事は、ずいぶん前の出来事ではありますが、それは民族的アイデンティティの中心をなすものでした。

あのエジプトでの過酷極まりない奴隷生活から、神は、さまざまな奇跡と力強い御手をもって解放してくださったという出来事です。

人々はこれまで、その経験を忘れてはならないと言われつけてきたはずですが。しかしここでは「思い出すな…」という、逆説的な言葉を耳にしています。

ここでイザヤを通して、神が語っているのは、過去の先人たち、先祖たちを救った、過去の神さまとしてのご自分ではなく、今のイスラエルの民を、新たな方法で救おうとしている、ご自分を人々に知らせるためなのです。

実際にそのことは、神の不思議な御手によってなされました。

強大な王国ペルシャがバビロン王国を退け、そのクロス王は、神からの明確な啓示により、イスラエルの民を、エルサレムに帰還させるようにしていきます。

更なる抑圧ではなく、解放がなされていく。だれも想像しなかった不思議を神様がなして下さったのです。

Ⅲ. すべて神の愛と恵みによります

聖書は、すべてを神のわざであること示すと同時に、このすべては神さまの恵みであることを示しています。

苦しみの中にあった人たちは、その境遇が自分たちの霊的な暗闇のゆえであったことを知っていました。

イザヤ42:24-25 …われわれは主にむかって罪を犯し、その道に歩むことを好まず、またその教に従うことを好まなかった。それゆえ、主は激しい怒りと、猛烈な戦いを彼らに臨ませられた。

その上でイザヤは続けて語るのです。

イザヤ43:1 ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。

「贖（あがな）う」。それは神さまの側で相応の代価、犠牲をを払って救い出すということの意味しています。民が何かをできたわけではなく、何もできずにいたけれども、その彼らを神の圧倒的な恵みと愛が覆っていた。これこそが神さまのなされる不思議なのです。

そうした上ではっきりと、「あなたはわたしのものだ」と言って下さるのです。

ここで聖書の中にある有名な聖句があります。（新改訳で）

イザヤ43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。

この言葉は、しばしば誤解されやすい言葉です。

「自分たちがそれほど価値ある存在だから、神さまはわたしたちを愛している」という意味ではない。わたしたちに誇れるものは一つもない。ただ神の恵みの大きさと一方的な愛がある。その愛に覆われていることを知ることこそが大切なのです。神の恵みのまなざしの不思議が、わたしたちは価値あるもの見てくださり、愛してくださっているのです。

使徒パウロはこうも語っています。

エペソ2:8-9 「あなたがたの救われたのは、実に、（神の）恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることはないためなのである。」

その愛の大きさを語る事実が、イエス・キリストの十字架です。

1ヨハネ4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下

さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

今日お読みししているイザヤ書の物語は、歴史上のイスラエルの物語です。一方で、この物語は、イエス・キリストを通して、わたしたちにもなぞらせることのできる神の愛の物語ともなっているのです。

43:1…「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。」 …と、わたしたちに向けて語ってくださるのです。

最後に)

2023年、わたしたちは新しい年の第一歩を踏み出しました。

「神さまが何をしてくださるか!？」神がくださる「新しい物語」に心を向けて行きたいと願います。

43:18-19 「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、また、いにしえのことを考えてはならない。見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれを知らないのか。わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる。」

「荒野に道」、「砂漠に川」、これは神わざのほかありません。これから困難、悩み、問題を経験する荒野をもわたしたちは通るかもしれません。

けれども、真っ暗闇の荒野をわたしたちの前を歩み、わたしたちの罪を身代わりに背負い、その十字架を負うて歩みぬかれたイエス・キリストがわたしたちの主です。その主イエスは、三日目に死にも勝利をおさめ、わたしたちの贖いを成し遂げてくださいました。

だからはっきり言えます。信仰によって受け止めるならば、わたしたちの新しい物語はすでに始まっているのです。その道を歩むかどうかです。

わたしたちは、想像を越える神さまの物語、神の恵みの大きさに期待して、まず神さまを神として心から崇め、この神さまと共に生きる歩みを確かにしていきたいと願います。